

開校百二十周年を迎えて

明治三十年、地域の方々の熱望により誕生した根津小学校は、火災や震災、大きな戦争による学童疎開のつらい経験などを乗り越えて、今年、開校百二十周年を迎えました。

東京市根津尋常小学校として開校した当時は、児童数わずか三十七名でしたが、翌、明治三十一年には、高等科も新設され、二百三十六名に急増しました。さらに児童数は増加し続け、大正十二年のピーク時には、現在と同じこの敷地内に、千八百五十六人もの児童が生活していました。そのため、昭和二年には、五百名が新設された汐見尋常小学校に移りました。現在までに一万三千六百四十四名の卒業生を輩出し、地域に根付いた学校、地名を頂いた学校として、皆様に愛されてきました。

地域には、開校当時から何世代にもわたり、根津小学校を卒業されたご家族が多くおいでです。また、根津地域の発展に伴い、他地区から移り住まれた方々も同様に根津の町を愛し、本校をしっかりと支えてくださっています。

「わが町、根津」「誇れる町、根津」と熱い思いを抱かれる地域の学校で、百二十周年を迎えられることに、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

本校に残る百二十年前の文書にこのような描写がありました。

『根津ノ地タルヤ本郷區ノ東部ニ位シテ東ハ上野ノ丘陵ヲ仰キ西ハ彌生ヶ丘ヲ負ヒタル一帯ノ低地ニ

シテ恰モ山間ノ一部邑タルノ感ヲナシ自ラ中部ト其ノ情態ヲ異スル所アリ』

学校の前から上野の山が見え、校舎の後ろには弥生の丘が堂々と立ち上っている、百二十年前の景色に想像を巡らせるのは楽しく、心躍るひとときです。

現在の根津小からは、不忍通り両側に商店街や高層マンションが立ち並び、上野の山は見えませんが、片町・宮本・八重垣・宮永・藍染・弥生等の由緒ある地名や、根津神社を中心として栄えた地域の香りが未だに残る、魅力ある土地柄です。

この地域の特色や教育力を活用して、本校では昨年度より教育課程を再編成しました。生活科・総合的な学習の時間を中心に、地域探検や職業体験、伝統の飴細工やペン画、伝統芸能の鼓や三味線、茶道や華道、日本舞踊等、日本人として、そして根津っ子としてのアイデンティティーを存分に身に付けられる教育活動が整えられたと自負しています。

これも、地域伝統技能をお持ちの講師の皆様、根津弥生七ヶ町会の皆様、保護者の皆様、そして、学校をがっちり支えてくださった、文京区教育委員会のご指導・ご鞭撻の賜物と、深く感謝申し上げます。

根津小学校が今後も誇り高く、「凜」とした学校、地域とともに歩む学校として、歴史を刻んでいくことを心から願っています。